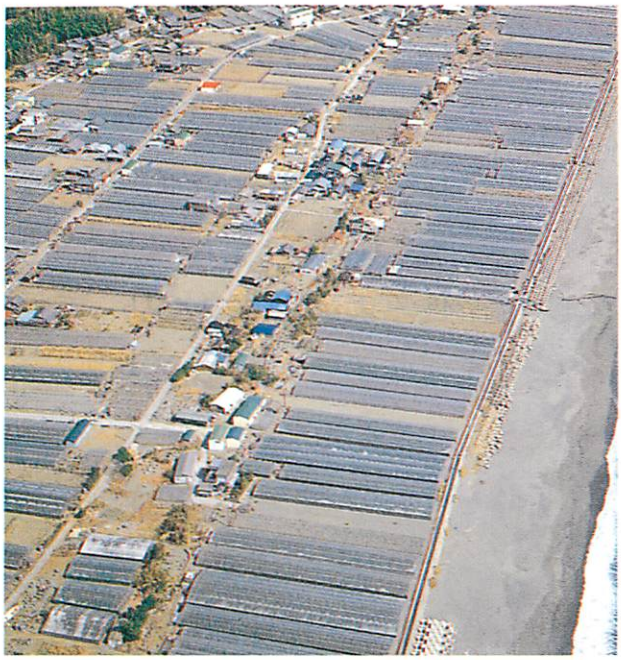
(2) これからの南国市と高知県

田園の南国市　南国市の農業は豊かな耕地と温暖な気候に恵まれて高知県の農業総生産額の約10分の1を占めています。かつては米の二期作で全国的に有名でしたが現在はほとんど行われていません。かわって「園芸王国の高知」の中心生産地になりました。

現在の南国市の農業は施設園芸野菜が中心になっています。大都市周辺の競合(きょうごう)産地の出現や米の減反、農産物の外国からの輸入自由化などがはかられ農業をとりまく事情は大変きびしいものがあります。

ビニールハウス群（南国市十市）



南国市の農業も大きな転換(てんかん)期をむかえています。高速道路や飛行機のジェット化による「大量短時間輸送時代」をむかえたことにより、一品一品にねうちのある農産物の導入や、売られていく先の開拓など、新しい生産活動が求められています。そのためには、農業そのものの近代化、合理化をすすめ、後継者(こうけいしゃ)の育つ生産性の高い農業をめざす必要があります。農家や農協、高知県が一体となり、新しい農業経営の方向をうちたてようと努力しています。

海や野山の幸がいっぱいの土曜市
（南国市大埇）

商工業の発展　南国市民が安心して働き、生活できるためには、地元の商業や工業の発展も必要です。

商工業の発展は、交通輸送が便利になったことにより期待されます。

農機具、紡績（ぼうせき）、猟銃（りょうじゅう）、石灰などの市民生活を支えている工業の発展に加え、公害のない、優良な工業を迎えることができる条件がととのい始めています。

農機具メーカー

住みよいまちづくり　市民が心地よく生活ができるためには、生活環境をととのえる必要があります。

上下水道、住宅整備、交通安全対策や災害を防ぐ対策、保健医療などを市や県に要望したり、市民の協力ですすめていかなければなりません。

十市パークタウン、高知大学医学部周辺など急速に開発が進み近代的な住宅団地ができています。その土地にふさわしい都市計画を立て美しい町づくりが望まれます。

十市パークタウン

観光・文化遺産　南国市は先人が残してくれた数々の貴重な史跡があります。南国市が「土佐のまほろば」といえるのも、古代から中世にかけて１千年の政治・文化の中心であったからです。そこを訪れる人々も多くなっています。

また自然を生かした観光農園では訪れる人に季節の味を楽しんでもらい人気を集めています。

歴史と自然に親しみ、楽しめる観光づくりが進められています。

交通の発達　空の交通は、1983（昭和58）年、高知空港拡張によるジェット機の就航（しゅうこう）により高知空港（現在 高知龍馬空港と改名）には飛躍（ひやく）的に多くの人々、貨物、情報が行き来しはじめました。さらに2004（平成16）年には、滑走路が2,500mに延長され、ジャンボジェット機が離発着できるようになりました。いっぽう陸のほうは、1987（昭和62）年、四国横断自動車道の一部が開通し、そして1988年には本州と四国が橋でつながりました。高知、大阪間を列車で４時間で結べるようになりました。また1998（平成10）年、四国横断自動車道路は伊野まで延び、高知新港も、同年開港しました。現在、四国横断自動車道は、須崎まで延びています。土佐くろしお鉄道宿毛線も、1997（平成９）年開業し、2002（平成14）年には、ごめん・なはり線も開業しました。海岸ルート（黒潮ライン）や中央部ルート（国道55号線）もしだいに整備されてきました。交通は人々の生活や産業・経済・文化と密接にかかわりのある都市基盤です。この輸送の有利な条件をいかして新たな県づくりが求められています。

（上）南国インターチェンジ　（下左）なんごく流通団地（下右）南国オフィスパーク

未来をきりひらく子どもたち　2千数百年の昔、わたしたちの祖先が集落をつくり、それ以来、今日まで人々の生きる歴史がこの土地にきざまれてきています。少しでも豊かな生活を築くために汗して働いてきた南国の人々の歴史があります。

今も、歴史がつくられています。南国市や高知県、そして日本、さらに世界の新しい時代をきりひらくのは子どもたちです。平和も希望も友情も、地上に残しきざみこんでゆくのは子どもたちです。